

令和6年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(4月1日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程学習指導	<p>①生徒の進路希望や社会に繋がる幅広い履修機会を提供するとともに、主体的に学ぶ高い意識の定着と問題解決能力の向上のため、特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>②課題解決に向けた探究学習の充実を図り、生徒の思考力、判断力、表現力を育む。</p>	<p>①ICTを活用した授業を展開することで、生徒の主体的に学ぶ意識と問題解決能力高める。</p> <p>②総合的な探究の時間等における探究活動の一層の深化、充実させる。</p>	<p>①ICTを活用した授業改善を通して、職員の授業力向上意識を高め、生徒の主体的に学ぶ意欲や問題解決能力向上につなげる。</p> <p>②深みある課題を設定させることで探究活動を充実させ、活動内容の発表やその振り返りを通して新たな知見を見出させる。</p>	<p>①授業力向上研修を重ね、ICTを活用した授業展開を実施し、その効果を実感することができたか。また、授業評価により、生徒自身が授業改善の効果を実感することができたか。</p> <p>②課題の「設定→発表→振返り」の一連の活動をブラッシュアップし、探究活動を充実させることができたか。</p>	<p>①ICTを活用した授業事例を学ぶ機会として授業見学期間を設けた。大型電子黒板の導入で新たな授業展開の発見や改善に繋がった。職員全体で取り組む研修機会を十分提供できなかつた。</p> <p>②課題設定から発表に至るまで、深みある学習をさせることができた。一方、入学者選抜等の関係で、探究発表会後の振り返りの時間が十分に確保できなかつた。</p>	<p>①大型電子黒板の活用方法などを職場全体で広く学ぶ意識を更に高めていく。授業相互見学についても、期間を設けず、通年で互いに授業改善できる体制にするなど工夫が必要である。</p> <p>②限られた時間の中で効果的に振り返りができる方法を検討する。</p>	<p>①授業相互見学の実施形態等を工夫し、ICT利活用の工夫を含む各自の授業実践を全職員で確実に共有することができるようとする。</p> <p>②探究学習・活動において、生徒が主体的に課題を設定し、その解決に取り組むことができるように、必要な働きかけを工夫する必要がある。そのために、課題の「設定→発表→振返り」に対する生徒の満足度を調査する。</p>	<p>①大型電子黒板の導入がスマーズに完了し、ICTを活用した、生徒に分かりやすい授業を目指した授業改善が進んだ。また、様々な技術を共有することで新たな授業展開の発見や改善に繋がった。しかし、相互授業見学期間における達成状況は十分とは言えない。職員全体で取り組む研修機会についても十分提供できない。</p> <p>②課題設定から発表に至るまで、深みある学習をさせることができた。一方、入学者選抜等の関係で、探究発表会後の振り返りの時間を十分に確保できなかつた。</p>	<p>①相互授業見学の期間を設けずとも、教員相互で日常的に見学できる雰囲気を醸成する。また、授業で使える様々な技術に係る講習会のような機会を増やし、教員の意識を高める。生徒の授業評価からは概ね満足できる評価を得てはいるが、それに満足することなく、生徒が学びや探究を実感できたと自己評価できる授業を今後も実践する。</p> <p>②効果的な振り返りの方法を模索する。また、生徒アンケートを実施し、活動の効果等を検証する。</p>
2	生徒指導・支援	<p>①組織的な相談体制を充実させ、生徒が安心して生活できるように支援するとともに、その社会性を高める。</p> <p>②部活動や委員会活動を通じて多様な他者と協働することで、集団活動を行う上で必要となること等を理解させ、行動の仕方を身に付けられるよう支援する。</p>	<p>①SC、SSW、教員によるカウンセリング及び相談を実施し、生徒や保護者のニーズに応えながら支援を継続していく。</p> <p>②部活動や委員会活動に主体的に参加させ、多様な他者との協働を通じて、コミュニケーション能力を高める。</p>	<p>①SC、SSW、教員が常に情報を共有しながら組織的に生徒支援を進めていく。また、教員への研修会を実施し、生徒理解の向上を図る。</p> <p>②生徒が中心となって部活動や委員会活動を通じて自分の考えを伝えることや他者の考えを理解しようとすることができる等、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。</p>	<p>①悩みを抱える生徒、保護者を適切に支援することができたか。また、研修会後のアンケート等で生徒理解が向上したことを見出せたか。</p> <p>②部活動や委員会活動を通じて自分の考えを伝えることは概ね達成することができ、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。</p>	<p>①SC、SSW、教員で情報を共有しながら、悩みを抱える生徒、保護者を支援することができた。教員対象研修会を実施し、生徒理解を深めることができた。</p> <p>②部活動や委員会活動を通じて自分の考えを伝えることは概ね達成することができ、コミュニケーション能力を高められる場の充実を図つていきた。</p>	<p>①SC、SSWと連携しながらの生徒支援はかなり定着してきた。今後は、教員のニーズも踏まながら、テーマを決めて研修会を実施したい。</p> <p>②生徒が多様な他者とコミュニケーションを図ることができるように、部間、委員会間で生徒が協働するような場や機会を工夫する必要がある。部や委員会に入っていない生徒への必要な働きかけについても工夫する必要がある。また、部活動や委員会活動についての生徒の満足度を調査する必要もある。</p>	<p>①SC、SSW、教員が連携しながら相談体制を構築し、組織的に生徒を支援する体制がかなり定着してきた。サポートドックの実施も2年目となり、支援を要する生徒をスマーズに必要な支援につなげることができた。今後は、職員向け研修会を、具体的な課題を踏まえて実施したい。</p> <p>②部活動や委員会活動を通じて自分の考えを伝えることは概ね達成することができ、コミュニケーション能力の向上を図ることはできた。しかし、多様な他者との協働においては、十分な成果を上げることができなかつた。</p>	<p>①生徒の特性を考慮しながら、より適切に相談に応じるとともに、組織的な生徒支援体制の更なる充実を目指す。また、教員のニーズや経験年数及び生徒の特性を踏まながら、テーマを決めて職員向けの研修会を実施したい。</p> <p>②部や委員会の枠を越えてコミュニケーション能力を高められる場の充実を図りたい。また、部や委員会に所属している生徒を主体的に学校行事等に関わらせる中で、部や委員会に入っていない生徒を巻き込み、学校全体としての「協働する場」の充実を図りたい。</p>	
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが自らの意志でキャリアをデザインし、それに基づく進路を実現することができるよう支援する。	・個々のキャリアデザインを確立させるとともに、目標を持たせ、進路実現を支援する。	・ガイダンス等を通して自己理解を促し、個々のキャリアデザインを確立させ。また、新課程入試に関する情報を効果的に配信するなどして、進路実現を目指す環境を整える。	・ガイダンス等により個々の生徒がキャリアデザインを確立させ、希望する進路の実現を支援することができたか。	・各種ガイダンス等を通じて生徒個々のキャリアデザインを確立させ、希望する進路の実現を支援した。	・今年度の取組みをブラッシュアップし、引き続き生徒の進路実現を支援する。	・各種ガイダンス等をより一層充実させ、各自の進路希望をより確実に実現することができるとよい。	・各種ガイダンス等を通じて生徒個々のキャリアデザインを確立させ、希望する進路の実現を支援した。	・各種ガイダンス等をブラッシュアップし、引き続き生徒の進路実現を支援する。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(4月1日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働	①情報等を適時適切な頻度で発信するとともに、地域等と連携し、地域等と生徒、職員が協働して、より一層開かれた学校づくりを推進する。	①学校ホームページを有効活用するとともに、公開講座を利用して、最新情報を速やかに更新、発信し、本校の教育活動を広く周知することができるようになる。	①・年度当初にホームページ更新に係る講習会を実施するとともに、各グループ等への必要な働きかけを丁寧に行い、更新作業を円滑に行うことができるようになる。 ・行事等本校の取組みを、ホームページを通じて適時丁寧に公開する。	①・多くの職員が、講習会により更新作業を行うことができるようになったか。 ・グループリーダーや部活動顧問に積極的な発信を促し、行事を含め本校の教育活動を地域等に周知するとともに、地域等と協働して教育活動に取り組む体制を構築することができたか。	①・ホームページ更新が不得手な職員に個別に対応することで、部活動に係る発信は更に早まり、活動が少ない部でも夏前には更新できた。 ・行事予定の連絡はしっかりとできているが取組み状況の報告が思うようにできていない。 ・直接小学校にチラシを届けるなどして、公開講座を地域住民の理解と協力のもと開催することができ、反響も大きかった。 ②・生徒が主体的に地域等に働きかけ、意見交換を行う機会を設けることができたか。また、お互いの要望、課題、問題点等を共有しながら、現実に即した防災訓練計画などを立案することができたか。	①・活動が目立たない文化部などのホームページ更新が少ないことが気になる。 日常の活動報告などで年数回の更新を促したい。 ・貸出カメラの操作に慣れるなどして見栄えのする写真記録を残せるようにする。また、行事ごとに記録係を置く。 ・公開講座の実施及び継続が担当者によって左右されることがないように、学校全体の取組みとして対応する。 ②・生徒に、自分たちが地域の一員として環境保全を担っているという自覚を促し、地域住民と意見交換する場や合同会議等を生徒が主体的に設定しようとするとよう更に支援していく。 ・防災上の課題を共有・検討・改善していくような防災訓練を実施することはできなかった。	①・ホームページを起点にした情報発信については、まだまだ工夫の余地がある。最新の情報をより多く且つより迅速に発信することができるよう、広報に係る対応等を改善する必要がある。 ・県の取組としての公開講座が今後実施されないのは残念である。 ②・コロナ禍の影響が未だに残っており、自治会の活動は減少しつつある。地域自治会との連携を強化し、諸活動を復活させる必要がある。	①・グループの担当者が都度個別に対応することで、必要な情報を発信することはできる。しかし、行事の様子や各部の大会結果などを適時迅速にアップするなどと、担当者任せになりがちである。顧問やグループのホームページ担当者が固定されるとは限らないため、ホームページの更新等に係る講習会は必須である。 ・公開講座は地域の反響が大きく、継続開催を期待する声もある。次年度は、「開かれた学校づくり」に係る行事の新たな形を模索したい。 ②・校内での防災訓練は、かなり実践的であるが、「地域ぐるみ」とまではまだ言えない。まずは近隣の支援学校や小学校との協働行事として始め、その後、「地域自治体を巻き込む」のが現実的であると思われる。 ・地域自治会の実情を踏まえ、地域との連携、協働の在り方について検討する必要がある。	①・グループ員でホームページ更新のチェックをこまめに行う。 ・「開かれた学校づくり」に係る行事の在り方については、各行事を見直したり、アピールできる特色がある部や教科に打診したりするなどして、方向性を見つけていきたい。 ②・地域自治会住民の高齢化により、自治会自体の行事が縮小されたり廃止されたりしている。地域との協働行事を学校主導で実現できるように、各行事の見直しを図りたい。 ・地域自治会との連携をどのように深め、また、協働をどのように図るべきか、防災委員会及び美化委員会の生徒に考えさせる。
		②地域清掃や座間市、近隣住民と協力して実施する防災訓練などの内容を、生徒にとって「主体的、対話的で深い学び」となるように工夫し、生徒の活動を支援する。	②地域の一員として、防災委員と美化委員を中心地域清掃や防災訓練を行い、その取組みの様子をホームページに掲載する。 ・コロナ禍で簡素化した行事や途絶えていた交流を復活させるために、防災委員と美化委員が中心となって改めて近隣住民と意見交換等を行い、要望、課題、問題点等を共有しながら今後の協働活動について検討していく。	②生徒が主体的に地域等に働きかけ、意見交換を行う機会を設けることができたか。また、お互いの要望、課題、問題点等を共有しながら、現実に即した防災訓練計画などを立案することができたか。						
5	学校管理 学校運営	①事故、不祥事の防止を徹底するとともに、安心で安全な学校づくりに組織的に取り組む。	①特に経験年数の浅い職員について事故、不祥事の防止を徹底し、安心で安全な学校づくりに組織で取り組む。	①全職員対象の研修だけでなく、経験年数の浅い職員に特化した研修により、全員で事故、不祥事の防止を徹底することができたか。	①全職員対象の研修と経験年数の浅い職員に特化した研修により、全員で事故、不祥事の防止を徹底することができた。	①事故・不祥事の防止全般については、職員会議後の不祥事防止会議を通して、意識の高揚を図った。経験年数の浅い職員については、標語の作成を通して不祥事防止意識の徹底を図ることができた。 ②衛生委員会において、職員の業務実態及び職場環境について、検証し、更衣室等を整理した。	①事故・不祥事防止については、引き続き、必要な意識啓発や不祥事防止会議等を通して、事案が起こらないよう、職員相互のコミュニケーションを大切にしていく。 ②次年度以降の職員室の環境善に向け、オフィス改善先行実施校の取組みを参考に、必要な計画、準備を進める。	①引き続き、職員間コミュニケーションを大事にしながら、事故・不祥事の防止に努めてほしい。 ②職員が業務過多で疲弊しないように、オフィス改善と併せ、特にメンタルヘルスケア体制を構築する必要がある。	①事故・不祥事防止について目標を達成することができた。引き続き、不祥事防止会議や必要な意識啓発等を通して、不祥事事案が発生しないよう、職員相互のコミュニケーションを大切にしていく。 ③令和9年度以降のオフィス改善については、実際の予算との兼ね合いもあるが、プロジェクトチームを早めに立ち上げ、全体への周知を含め、準備を進める。	①事故防止会議のみならず、各グループ会議等を通して、グループ業務の視点からも意識啓発を図るとともに、引き続き職員相互のコミュニケーションを大切にしていく。 ②オフィス改善については、実際の予算との兼ね合いもあるが、プロジェクトチームを早めに立ち上げ、準備を進める。
		②本県の「働き方改革」に合わせ、効率的で合理的な働き方について研究し、その成果を教育活動に生かす。	②働き方改革を効率的に且つ合理的に進めいく。	②業務改善について、衛生委員会で検討する。	②業務改善について、衛生委員会で検討することができた。					

